

内科 専門研修プログラム

専攻医が診療を通して自己を磨き、成長していけるよう、全力でサポートします！

千葉大学病院の強みは、内科系各専門分野にわたる豊富な症例と充実した指導医。ですから、基本的診療と先進医療双方の実践を通じて、専門研修で修得すべき能力をしっかり身に付けることができます。

特に大切にしているのは、エビデンスに基づいた医療と基本的な診療能力の修得、そして、常に患者さんの立場に立って診療を行うことができるHumanity。患者さん、看護師、仲間、先輩など周囲の人々と学び合うことで、自分自身を絶えず見つめ直し、ともに成長していくことができる研修環境です。



「私たちに任せください！」と各科長が笑顔で呼びかけ。
(上段左から)呼吸器内科、感染症内科、腎臓内科、循環器内科。
(下段左から)糖尿病・代謝・内分泌内科、アレルギー・膠原病内科、血液内科、総合診療科、消化器内科。

■ プログラムの“ここがポイント”

<柔軟で発展的な研修プログラム>

1. 自らのニーズで研修プログラムを自由に設計できる。
2. 早期に確実に研修到達目標を達成できる。
3. Subspecialty研修との並行研修や地域研修ができる。
4. 研修中に大学院に入学してリサーチマインドを涵養できる。

<充実した研修体制>

1. 協力病院と大学病院で幅広い内科診療・Subspecialty診療を経験できる。
2. 多くの地域病院から研修病院を選択できる。
3. Common diseaseから希少疾患まで豊富な症例を経験できる。
4. 熟練した指導医による丁寧な指導を受けることができる。

受入れ人数 : 60 名
選考方法 : 書類選考、面接

豊富な症例と充実した指導医が当院の強み！
専攻医の皆さんが自らの夢の実現に向け、
大きく飛躍できるよう、自由度の高いプログラムを用意しています。

■ 専門研修期間 : 3年 ※詳細は裏面

1. 各科(Subspecialty)重点コース : 希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコース

2. 総合内科コース : 内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコース

■ 研修連携施設・特別連携施設

A群: 11施設 多数領域および特定専門領域の研修を行う連携施設(専門研修1~3年次)

B群: 46施設 特定専門領域の研修を行う連携施設(専門研修1~3年次)

C群: 13施設 地域医療研修の連携施設・特別連携施設(専門研修3年次)

■ プログラム責任者 中島 裕史(アレルギー・膠原病内科)

■ 研修プログラムに関するお問合せ先

鈴木 浩太郎・栗原 俊二郎(アレルギー・膠原病内科)

Tel : 043-226-2224

e-mail : xai6023@office.chiba-u.jp

お気軽にお問合せください！

千葉大学病院 総合医療教育研修センターHP
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/>

千葉大学病院 見学のお申込み
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/visit/index.html>

日本内科学会 <http://www.naika.or.jp/>

1. 各科(Subspecialty)重点コース（希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコース）

- 専攻医は研修開始直後に希望するSubspecialty領域で初期トレーニングを行い、ひきつづき、Subspecialty研修と内科研修との並行研修を行うことができます。
- この期間、専攻医は将来希望する内科において指導医や上級医から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習します。
- 2年目終了までに研修到達目標の多くを達成します。
- 大学病院あるいは連携施設における当該診療科においてSubspecialty領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。
- 研修施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム管理委員会が協議して決定します。
- 大学院への進学を希望する場合は、担当教授とプログラム管理委員会が協議して大学院入学時期を決定します。

例1：大学病院で症例経験を重ねて地域へ！ ～後期に地域病院でサブスペシャリティ研修を～

1年目：大学病院	2年目：協力病院（A群）	3年目：協力病院（A群 or B群）
Subspecialty研修との並行研修 あるいは 各科ローテート研修（個別調整）	Subspecialty研修との並行研修 あるいは 各科ローテート研修（個別調整）	原則としてSubspecialty研修

例2：ジェネラルから始めよう！ ～地域中核病院の2年間からスタート～

1年目：協力病院（A群）	2年目：協力病院（A群）	3年目：大学病院
Subspecialty研修との並行研修 あるいは 各科ローテート研修（個別調整）	Subspecialty研修との並行研修 あるいは 各科ローテート研修（個別調整）	原則としてSubspecialty研修

例3：症例を重ねて地域へ！ ～早期の博士号取得も視野に入れて～

1年目：大学病院	2年目：協力病院（A群）	3年目：大学病院
Subspecialty研修との並行研修 あるいは 各科ローテート研修（個別調整）	Subspecialty研修との並行研修 あるいは 各科ローテート研修（個別調整）	原則としてSubspecialty研修 （大学院入学可）

2. 総合内科コース（内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコース）

- 内科(Generality)専門医はもちろんのこと、将来、内科指導医や高度なGeneralistを目指す方も含まれます。将来のSubspecialtyが未定な場合に選択し、後に各科(Subspecialty)重点コースに変更することもできます。
- 大学病院あるいは連携施設・特別連携施設の各科をローテーションし、2年目終了までに研修到達目標の多くを達成します。
- 研修する病院・施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム管理委員会が決定します。総合医療教育研修センターが研修をサポートします。

例1：大学病院で症例経験を重ねて地域へ！ ～後期に地域病院でサブスペシャリティ研修を～

1年目：大学病院	2年目：協力病院（A群）	3年目：協力病院（A群orB群orC群）
各科ローテート研修	診療内容、研修進捗状況によって 個別調整	診療内容、研修進捗状況によって 個別調整

例2：ジェネラルから始めよう！ ～地域中核病院から始めて早期に研修目標を達成しよう～

1年目：協力病院（A群）	2年目：大学病院	3年目：協力病院（A群orB群orC群）
診療内容によって個別調整	研修進捗状況によって 個別調整	診療内容、研修進捗状況によって 個別調整

- A群：**多数領域および特定専門領域の研修を行う連携施設（専門研修1～3年次）
- B群：**特定専門領域の研修を行う連携施設（専門研修1～3年次）
- C群：**地域医療研修の連携施設・特別連携施設（専門研修3年次）
- 千葉市立青葉病院、松戸市立総合医療センター、船橋市立医療センター、君津中央病院、千葉労災病院、成田赤十字病院、国保旭中央病院、千葉医療センター、千葉県済生会習志野病院、JR東京総合病院、国際医療福祉大学成田病院
- 千葉メディカルセンター、千葉東病院、東千葉メディカルセンター、JCHO千葉病院、千葉県がんセンター、千葉県救急医療センター、千葉県循環器病センター、千葉市立海浜病院、聖隷佐倉市民病院、JCHO船橋中央病院、下志津病院、東京労災病院、多摩総合医療センター、聖隷横浜病院、さいたま赤十字病院、山梨県立中央病院、沼津市立病院、浜松医療センター、聖隷浜松病院、横浜労災病院、東京都健康長寿医療センター、JCHO東京新宿メディカルセンター、水戸済生会総合病院、松戸神経内科、国際医療福祉大学市川病院、亀田総合病院、日本赤十字社医療センター、三井記念病院、東京医療センター、など
- いすみ医療センター、香取おみがわ医療センター、さんむ医療センター、国保多古中央病院、東庄病院、国保匝瑳市民病院、国保大網病院、東陽病院、公立長生病院、鴨川市立国保病院、千葉県立佐原病院、など（いずれも千葉県医師修学資金貸付制度の対象施設）